

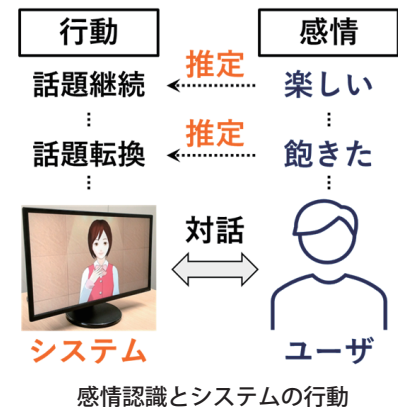
ユーザの感情に対して適応的に振る舞う対話システムの実現

研究の概要

対話時のユーザの感情（対話を楽しんでいる、飽きている、など）を認識するシステムの開発に取り組んでいます。

また、ユーザが表に出さないような内面状態の変化を捉えるため、生体情報を活用した手法の開発も進めています。主に脳波や皮膚電位などに着目しています。さらに、システムとの対話に対する反応に個人差があることから、この問題の解決を目指して、各ユーザに合わせて感情認識を最適化する方法の開発にも取り組んでいます。

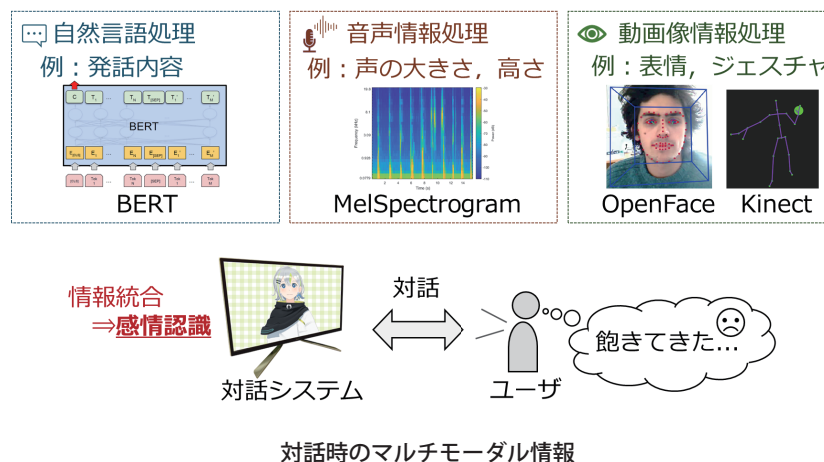
これらにより、ユーザの真意を捉えるシステムを創製し、人とシステムの円滑なコミュニケーションを実現します。



研究の特徴

人間の振る舞いを多面的に考慮するマルチモーダル感情認識に取り組んでいます。

言語情報（ユーザの発話内容）のみならず、音声情報（声の大きさ、高さ）や視覚情報（表情、姿勢、動作）などの非言語情報を含めた多面的な情報を使って、機械学習による感情認識やデータ分析を行っています。さらに生体情報も活用した評価を行うことで、ユーザに寄り添った細やかな振る舞いのできる対話システムの開発に貢献します。



実用化が想定される分野

- ・ 教育（生徒の内面状態のモニタリング）
- ・ ヘルスケア（心理的カウンセリングのサポート）
- ・ コンテンツ・サービスに対するユーザのフィードバック、クレーム処理

研究者からのメッセージ

人間の振る舞いを工学的に理解・統合することに興味のある方、ご連絡ください。主に人とシステムとの対話を中心に研究を行っていますが、これに限定されず幅広く対応します。

研究分野：マルチモーダル・インタラクション, Affective computing (感情計算論)

研究者の所属部局・職位・氏名：和歌山大学システム工学部 情報学領域・講師・堅田俊

本件に関するお問い合わせ：liaison@ml.wakayama-u.ac.jp